

会報

第320号

岩手県小学校長会
代表 前川 岳 詩
事務局 TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所

第六十四回東北連合小学校長会研究協議会 青森大会 弘前市にて開催

第六十四回東北連合小学校長会研究協議会青森大会が、七月四日(木)五日(金)の二日間、弘前市民会館を主会場に市内六会場で行われた。東北各県から九百五十名を超える小学校長が参加、岩手県からは百三十三名が参加した。



津軽三味線



開会行事



講演

開会行事で、澤田裕一東北連合小学校長会会長は、コロナ禍における学校経営と現在の教育諸課題、大会主題の趣旨について触れ、昨年度の山形大会の成果を引き継ぎ、「郷土に誇りをもち 未来を主体的に拓く たくましい子

どもの育成を目指す学校経営と校長の在り方」を副主題として位置付けたと述べた。また、「東北は一つ」の合い言葉のもとで得られた成果が各県の日々の学校経営に生かされるとともに、全国へ発信できる大会としたいと語った。

開会行事の後には、「健康教育の理念とその実践」「健やか力」育成のために」と題して、国立大学法人弘前大学特別顧問・名誉教授中路重之氏による記念講演が行われた。

分科会報告

第一分科会(経営・組織・運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

軽米町立軽米小学校

佐藤 伸之

視点一では、山形県米沢市小学校長会から「教職員のウェルビーイングを目指した魅力ある学校経営について」ICTを活用した新しい学校経営の実現」のテーマで実践発表が行われた。校務DXの推進により、時間外在校時間を削減するなど教職員の働きやすさにつなげることを試みる実践であった。校務のデ

児童・生徒にリアルに伝えるため、血圧、みそ汁の塩分、歩数などの実測を授業に取り入れることを実践していることが紹介された。

二日目は、十のテーマに分かれて分科会が行われた。実践を踏まえた研究発表をもとに、熱心な研究協議が行われた。各分科会の様子は次のおりである。

デジタル化推進、学習における情報端末の活用においては学校や地域によって導入しているシステムが異なることによる異動時の対応ストレスが、どの地域でも課題となっている。教職員のデジタル化への対応力には個人差があるが、まず校長が先頭に立って、メリット、デメリットを見極めて推進することが重要であることを学ぶことができた。

視点二では、青森県青森市小学校長会から「学校運営に対する教職員の参画意識を高める、時代に即応した校内組織の在り方・運営の工夫」として、教科担任制、複数担任制(チーム担任制)の導入により、教職員の負担軽減と参画意識の高揚につなげる実践発表が行われた。学校規模、教職員の年齢構成等により、各校が抱える課題は多様であるが、人材育成の面、児童理解の面からも様々な効果があることを学ぶことができた。

導入には教職員や保護者の理解が必要となるが、複数担任制は、これからの学校経営において重要な考え方の一つであると思われる。

第二分科会(評価・改善)

教育活動の活性化を図る学校
評価と学校運営の改善

葛巻町立江刈小学校

高橋 淳子

視点一では、秋田県湯沢雄勝地区校長会より、「地域とともにある学校づくりを推進するための学校関係者評価の在り方について」の実践発表があった。学校経営において、学校関係者評価に焦点を当てた研究・改善・検証に、ミドルリーダーの育成を絡めての取組が報告された。学校の課題を解決していくためには、保護者・地域・学校の三者が一体となり、同じ方向へと進んでいくこと、学校運営の中にミドルリーダーの育成を位置付けること等が確認された。

視点二では、青森県下北小学校長会より、「学校の活力を高めるため、教師力と組織力を発揮させながら教職員を学校評価に参画させるための学校評価と教職員評価の在り方」についての実践発表で

あった。

学校の活力を高めるためには個々の教師力を高めるとともに、ミドルリーダーには組織全体を「生かす」意識を、その他の教職員には組織全体を「支える」意識をもたせながら組織力を発揮して学校経営に参画できるようにすることの大切さを確認することができた。

他県の実践や、校長先生方の話を伺い、校長としての役割の重み、今後の評価の工夫やミドルリーダーの育成など、多くのことを学ぶ機会であった。

第三分科会(知性・創造性)

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

盛岡市立太田東小学校

浅利 宏光

視点一では、宮城県仙台市校長会より、「教科等横断的な指導計画の作成」「特色ある教育課程の編成」「外部人材の積極的な登用」をポイントとし、教職員の授業づくり

の意識、資質・能力の向上を図るための校長の意図的な働きかけについて発表があった。児童や教職員、学校の実態を踏まえ、校長の気付きや

思いをもとに学校課題を明確にすることが、どの事例校にも共通してみられた。育みたい児童の資質・能力に焦点を当てた校内研究、カリキュラム・マネジメントコーディネート・マネジメントを貫く柱を通じた実践等、校長の意図的な働きかけを学んだ。

視点二では、青森県八戸市小学校長会による「『知性・創造性を育む編成・実施・評価・改善』のための校長の果たすべき役割と指導性」についての発表だった。SWOT分析により、校長がファシリテーターとなり努力すべき内容を集約し取り組んだ実践、ICT機器を活用し地域・保護者との連携・協働や主体的な児童の育成を図った実践が報告された。目標・ビジョンを地域・教職員と共有することをもとに、校長の真摯な傾聴姿勢、コミュニケーション

能力、発信力等を校長の役割として確認した。他県の実態や各校の実践等を伺い、有意義な協議となった。

第四分科会(豊かな人間性)

豊かな人間関係を育むカリキュラム・マネジメントの推進

野田村立野田小学校

板垣 健

視点一「豊かな心を育む道徳教育の推進」について、福島県二本松市立原瀬小学校の佐藤睦弘校長が発表した。発表の中では、道徳教育推進教師を中心とした取組の在り方、家庭や地域社会と連携した体験活動の充実に向けた視点が柱となっていた。道徳教育推進教師を対象としたアンケート調査では、道徳科の授業公開、家庭や地域との連携について、校長からの指導・支援を強く求めていることが明らかにになった。校長の方針の下、全教師が協力しながら道徳教育を推進していく上で、特に意識すべき点であると感じた。

視点二「よりよい社会を創る人権教育の推進」について、青森県大鰐町立大鰐小学校の大川 浩校長が発表した。発表の柱の中に、既存の教育課程との関連という項目があった。教育課程の実施過程においては、人権教育に関わる要素が数多く存在している。それが人権に関わることだと教師が意識した上で、児童の指導・支援に臨むことが大切だと学んだ。人権教育とつめ直すことで、人権教育がより身近なものと感じることにつながる。校長としては、児童の姿や言葉、教師の指導方法などを人権教育の視点から価値付け、学校全体及び家庭や地域に広げていくことが大切だと感じた。

視点二「よりよい社会を創る人権教育の推進」について、青森県大鰐町立大鰐小学校の大川 浩校長が発表した。発表の柱の中に、既存の教育課程との関連という項目があった。教育課程の実施過程においては、人権教育に関わる要素が数多く存在している。それが人権に関わることだと教師が意識した上で、児童の指導・支援に臨むことが大切だと学んだ。人権教育とつめ直すことで、人権教育がより身近なものと感じることにつながる。校長としては、児童の姿や言葉、教師の指導方法などを人権教育の視点から価値付け、学校全体及び家庭や地域に広げていくことが大切だと感じた。

第五分科会(健やかな体)

健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

一関市立藤沢小学校

菊地 桂子

視点一「生涯にわたって豊

かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる教育活動の推進」では、一関市室根・藤沢地区が、「自ら運動に関わっていこうとする子どもを育てる教育活動の推進と校長の役割」家庭・地域との連携も視野に入れながら」について発表した。ロードレース大会の在り方を見直し、距離等を児童が選択する場を設定したことや運動の成功体験や達成感が味わえる授業づくり、運動の習慣化を図る実践が報告された。

実践が報告された。発表・協議を通し、校長として、児童の健康・安全への意識を高めるために、職員・保護者との問題意識及び目的の共有、地域への情報発信と連携、カリキュラム・マネジメントの推進、これらの役割を再認識することができた。



第5分科会

第六分科会(研究・研修)

学校の教育力を高める研究・研修

矢巾町立矢巾東小学校
小原 賢

視点一「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」では、山形県西村山地区が、特に若手教員の資質・能力の

育成に係り、「若手教員のニーズを踏まえた取組」「若手教員のネットワーキング」についての実践と、それに係る校長の役割について発表した。

印象に残ったのは、若手教員のリクエストを募り、日頃の悩みや知りたいことについて、若手とベテランを組み合わせた少人数グループを意図的に編成した校内研修の取組だった。

視点二「将来への夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」では、青森県南地方が「教員の資質・能力」「キャリアステージに応じた資質・能力」「働きがい・やりがい」の三つの観点に分類した研究を発表した。

発表には、学校経営のグラウンドデザイン作成と職員の関わりについてのものがあつた。

グラウンドデザインの作成に教職員全員を関わらせることで、目指す子ども像の共通理解が深まり、教職員の意欲と

経営への参画意識が高まることを改めて考えさせられた。また、他校の校長先生方との意見交流で、教職員の年齢構成がアンバランスであることや、若手教員の意識が変わってきていること等、日常の学校経営の悩みを共有できたことも収穫だった。今後の学校経営に生かしていきたい。

第七分科会(学校安全)

命を守る安全教育・防災教育の推進

花巻市立太田小学校
藤田 聖子

視点一では、秋田県能代山本校長会の「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進と校長の在り方」についての実践が発表された。研究の成果として「校長会での情報交換により効果的な避難訓練が実施できたこと」「関係機関との連携や職員研修によって、児童や教職員の判断力の向上が図られたこと」「校長会としての

取組の一般化により、各校の安全教育・防災教育が充実したこと」の三点が挙げられた。

視点二では青森県西北小学校長会の「家庭や地域社会との連携・協働による防災教育の推進と校長の役割」についての実践が発表された。防災教育の活動の中に児童の役割を取り入れることで、より実践的な取組になるという成果が興味深かった。研究実践から、体制づくり・共通認識・持続可能な取組を基に働きかけて意識を高めていくことと自校の実態を把握し、連携を築いて防災教育を進めていくことの重要性が挙げられた。また、持続可能な取組にするためには、学校が主体となりすぎない組織づくりが大切ということも挙げられた。

発表・協議のいずれも、校長の役割や指導力の発揮について触れられており、校長としての責任の大きさを改めて実感させられた。

第八分科会(危機対応)

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

北上市立黒沢尻東小学校

藤田 浩人

視点一「いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり」では、宮城県本吉地方

長会から「実態調査」「実践事例」「提言」の三つの内容で発表があった。校長と教職員へのアンケートを基にいじめ・不登校対応について実態把握したところ、保護者アンケート未実施の学校が多く、導入に向けた提言がなされていた。また、教職経験によって、相談や対応に迷いが見られることに触れ、いじめ・不登校対応の研修を行うこと、担任一人で抱え込ませないため、同僚性を高めることについて提言されていた。

視点二「教職員の高い危機意識並びに対応能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり」では、青森県三戸郡校長会から「重大事故の予防のためのヒヤリハット事例の活

用」について発表があった。

学校事故や交通事故、自然災害等、重大事故に至らなかったがヒヤリ、ハットとした事例を各校長から集め、集約した事例シートを使って、各校で対策についてグループ協議をするなど研修に役立てるという内容であった。

グループ協議では、いじめ対策担当という生徒指導主事とは別の役割を設けて対応していることや、職員室近くに登校不安・不適応の子が利用する教室を設けていること、県全体で小中高の保護者アンケートを実施していることなど情報交換することができた。

第九分科会(自立と社会性)

自立と社会参加を図る教育の推進

遠野市立青笹小学校

鈴木 久美子

視点一「特別支援教育の推進」では、福島県福島市校長会から「校長会の機能を生かした共通実践化」についての

実践が発表された。授業力の向上にむけた研修の充実、学級経営や環境整備等を校長会で共有して推進した事例が紹介され、組織として取り組むことで全体の取組が向上して

いることが分かった。グループ協議では、特別支援教育に関する情報を共有したが、その専門性ゆえに課題も多く、どの県でも同様の実態であった。その中でも「特別支援コーディネーターの活用」と「外部連携」が重要な視点であると感じた。

視点二「キャリア教育の推進」では、青森県上北地区おいらせ町校長会から「地域の教育資源の活用を通じた実践」が発表された。キャリア教育を学校経営に位置付けた上で、学級活動や総合的な学習等との関連を図った事例が紹介された。グループ協議では、キャリアパスポートの活用やキャリアアカウンティング

の仕方、地域との連携による資源活用等について具体的に交流することができた。いずれの視点でも、組織と

して適切に対応していくためには、校長が見識を深めることが必要であり、校内はもとより保護者・地域社会との連携が欠かせないことを再確認することができた。

第十分科会(社会との連携・協働)

家庭・地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進

金ヶ崎町立金ヶ崎小学校

最上 啓

第十分科会では、九十六名の参加者が十五グループに分かれ協議を行った。

視点一「家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進」について、岩手県気仙地区校長会から、学校運営協議会における熟議・連携、校長の役割について実践発表があった。協議では、学校は地域に頼るだけでなく地域を強化・育てる役割も担う立場にあり、地域と学校がよい関係性を確立していくことの必要性を確認した。その反面、

地域に対して学校ができること、できないことをはっきりさせながら進めていくことも必要であり、そのためにも校長として「課題・方針」を明確に提示していくことの重要性について、再考することができた。

視点二「成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進」について、青森県下北校長会の実践から、学校段階間の接続現状から小中連携は継続され、内容も充実しているが、幼保小の連携に課題があることが示された。改善策として、小学校教員が幼児期の終わりまでに育ててほしい十の姿等を理解すること、直接情報交換を行う場が必要であるという認識を深めることができた。また、学校段階等間の接続・連携の目的を明確にすることの重要性が確認できた。

発表後のグループ協議で、各県の実践等の交流ができ、校長としての役割の重さを再確認できた。

地区校長会研究交流

「気仙」だからこそできる、「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を目指して

気仙地区校長会

一 組織と活動、役割

気仙地区は、気仙地区小・中学校長会協議会があり、気仙地区小学校長会と中学校長会で構成されています。

気仙地区小学校長会は、大船渡市内十一校、陸前高田市市内八校、住田町内二校の二十一校、中学校長会は大船渡市内四校、陸前高田市市内二校、そして住田町内一校（令和六年度新設）の七校で構成されており、気仙地区小・中学校長会協議会は二十八校の校長によって組織されています。

協議会は、全体研修会や講師を招いての講演会（隔年で開催）、懇親会、歓迎会、送別会などを通して小・中の連携を図りながら情報共有を行ったり、見識を深め合ったりしています。

また、「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づ

くり」を研修の目的に掲げ、

気仙だからこそできる教育、やるべき教育を推進するた
め、様々な活動を通して校長としての資質と指導力の向上を図るとともに、会員相互の連携を深め、研修の充実を図っています。

二 活動方針

- (一) 会員相互の連携と交流を密にし、本会の活動の充実を図る。
- (二) 研究体制を確立し、個々の学校経営の向上に資する。
- (三) 地域や関係機関・団体との連携を図り、教育の充実を努める。

三 活動の重点

- (一) 地区協議会の機能を充実させ、活動の活性化を図る。
- (二) 研究体制を確立し計画的な活動を推進する。
- (三) 情報交流を密にし、

児童生徒の健全育成を図る。

- (四) 復興教育の一環として、教育諸条件整備に努める。
- (五) 関係諸団体との連携を強化する。
- (六) 地区副校長会とタイアップした「管理職等研修会」を推進する。

四 活動内容（小学校長会）

- (一) 全体会と班別研修会の開催
全体会では、各部からの報告や依頼事項の確認、喫緊の学校課題について情報交換を行う。

班別研修は、県の研究課題に沿って三班に分かれて研究にあたる。
年五回開催するが、必要に応じて各班の研修会を設定する。

- ア 研究班の構成
【A班 小学校】 七名

◇研究課題

目指す学校づくりと組織・運営の活性化
（視点1）学校の課題を明確にした学校経営の推進

- ◇研究主題（仮）
「学校のウェルビーイングを旨とした活力ある学校経営の推進について」

（令和八年度県発表）
【B班 小学校】 七名

◇研究課題
家庭・地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進
（視点1）家庭・地域等との連携・協働を深め、創造ある教育活動を展開する学校づくりの推進

- ◇研究主題
「家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進」
（令和六年度県発表）

◇研究課題
知性・創造性を育むカリキュラムマネジメントの推進
（視点2）知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
◇研究主題（仮）
「教育課程の効果的な評価・改善・編成・実施を推進するための校長の役割」
（令和八年度県発表）

- (二) 気仙地区小・中学校長会協議会全体研修会
ア 期日
令和六年十月三十一日

イ 内容

小学校三班と中学校一班の研究発表会

- (三) 各種研究大会への参加

ア 東北連合小学校長会研究協議会青森大会

イ 県中学校長研究大会

ウ 二戸大会

(四) 県小学校長会による被災地訪問

ア 期日
令和六年八月二十六日

イ 場所
大船渡市立赤崎小学校

五 結び

未曾有の大災害から十三年が経過し、私たち校長会は、気仙に生きる子どもたち一人一人が、希望に満ちた学びの道を歩むため、小中ともに手を取り合い、学校教育の充実・発展に努め、地域・住民の信託に応えようと研修を進めています。

これからも、「気仙は一つ」を合い言葉に、研鑽を積んでまいります。

（大船渡市立綾里小学校
渡辺 信子）

新たな教育課題への対応

釜石のよさと震災の痛手を学び、考え表す児童の育成

釜石地区(双葉小学校の実践から)

一 学区の様子

「『鉄と魚とラグビーの町』釜石」。釜石の中妻地区にある本校学区は、釜石市の中央東寄りに位置し、釜石港より約二キロ〜四キロの範囲に広がっている。本学区は、もともと釜石製鉄所の発展に伴って住宅街を中心形成された住宅街であったが、昭和四十二年以降の合理化により住宅が撤去され、都市計画によって整備された一般住宅地と国道283号線沿いに発展した商店街が混在した地域で

ある。平成三十一年三月には、三陸沿岸と内陸を結ぶ釜石道路と三陸沿岸道路(宮城県仙台市宮城野区から青森県八戸市に至る高速道路であり、三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道の三路線の総称)が全線開通した。学区内には釜石中央インターチェンジがある。

二 釜石市の「いのちの教育」

釜石市では、防災教育を核とした「いのちの教育」を教育活動全体を通じて行い、「自他の命を守るために、主体的に行動することができ子ども」を育てることを目指している。令和四年度から二年間かけて、洪水や土砂災害にも対応する内容を加えた新たな「防災の手引き」を作成し、今年度は、手引きを活用して、それぞれの学校で授業を行っている。

三 本校の「いのちの教育」から

本校では、「釜石のよさと震災の痛手を学び、考え表す児童の育成」を目標に、いのちの教育に取り組んでいる。

釜石のよさを知る学習では、鉄の歴史館や釜石鉱山・旧釜石鉱山事務所、釜石大観音、鶴住居復興スタジアムなどに実際に行きつたり触れたりすることで、自分たちの住んでいるところのよさに気付かせている。震災の痛手を学ぶ学習では、被災したお店の方から当時の話を聞いたり、「東日本大震災津波伝承館」や「いのちをつなぐ未来館」などを見学したりすることを通して、震災の悲惨さを知るとともに、尊い命を大切に、そして、自分で守るという気持ちの育成を図っている。

また、毎月一日は、「双葉防災の日」として、どの学級も朝活動の時間に、防災教育を継続して行っている。初めに、「釜石市防災市民憲章命を守る」を全員で唱和した後、「いわての復興教育副読本」や「釜石市防災の手引き」を使って学んでいる。

五 地域との連携

本校では、年に四回、避難訓練を行っているが、それとは別に、地域と連携した避難訓練を行っている。

双葉小学校と釜石中学校のある中妻地区で共催の「中妻地区津波避難訓練」である。中妻地区応援センターと連携し、令和四年に岩手県より発表された、「日本海溝地震発生時における津波浸水の被害(釜石地区)」の想定に基づき、下校時における地震・津波避難訓練として地域と一緒に実施している。有事の際には、速やかに自分で考え判断し、「自分の命は自分で守る」行動につながるように、児童の下校時途中に釜石市に大津波警報が発令されたとき、自分で考えて、近くの避難場所に避難するという訓練である。

（釜石市立双葉小学校 市村かおり）

六 終わりに

四月の県小学校長会総会で被災地状況報告でも説明したとおり、私たち教員は、大震災の経験の有無に関わらず、震災を知らない世代の子どもたちに、様々な手立てを工夫しながら指導を行っていかなくてはならない。

釜石市では、三月に市の防災避難訓練を行う。参加者が少ないという現状を受けて、今年度も子どもたちがポスターやチラシを作成し、できるだけ多くの人が参加するよう呼びかける予定である。

釜石市防災市民憲章 命を守る

釜石市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、千人を超える尊い命を失った。その悲しみが、癒えることは決していない。
しかし、古来より、先人たちが、度重なる災害や戦災をたくましく乗り越えてきたように、今、私たちは、ふるさと復興への道を歩み続けている。
自然は恵みをもたらし、ときには奪う。
海、山川と共に生き、その豊かさを享受してきたこの地で安全に暮らし続けていくためには、また起こるであろうあらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。
未来の命を守るために、私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。

備える

災害はときと場所を選ばない
避難訓練が命を守る

逃げる

何度でもひとりでも安全な場所にいち早く
その勇気はほかの命も救う

戻らない

一度逃げたら戻らない戻らせない
その決断が命をつなぐ

語り継ぐ

子どもたちに自然と共に在るすべての人に
災害から学んだ生き抜く知恵を語り継ぐ

私たちは生きる。

かけがえのないふるさと釜石に、共に生きる。

制定年月日 平成 31 年 3 月 11 日

新たな教育課題への対応

教職員の働き方改革と ウェルビーイング

～児童も職員も笑顔を大切にしたい学校経営～

宮古地区(田老第一小学校の実践から)

一 はじめに

「教員志願者減少」「教職はブラックな職業」「疲弊している学校現場」・・・このような記事を新聞やSNSで目にするのが多々ある。昨今、多くの学校で「通知表の様式変更」「ICTの積極的な活用」「学校閉庁日の設定」「運動会午前開催」などの改革に取り組んでいるが、本校においてもできることは何か模索する毎日である。

二 本校での取組と現状

本校では、学校経営の重点

の一つに「働き方改革の推進を通して、学校運営を改善すること」を掲げ、定期的な学校衛生委員会を開き、職員から働き方改革に向けた意見を聴く場を設けている。また、働き方改革について良いアイデアが浮かんだ時は管理職にいつでも伝えるように日常から話している。そのような中で、職場全体として勤務時間への管理意識が高まったためか、月四十五時間を超える職員が、一昨年度よりも昨年度、昨年度よりも今年度と大幅に減少してきている。今年度は四十五時間を超えた職員は現時点でいない。しかしながら、行事の大胆な見直しなどの大きな改革にはなかなか取り組むことができないでいる現状がある。削ることができるとは何か。目的を考えてみてまとめる取り組むことができるものはないか。校長としてそのようなことを考えている。

三 ウェルビーイングの実現

働き方改革の目的を、「超過勤務時間を減らすだけにと

のやり甲斐を実感し、向き合う子どもたちのよりよい成長につなげること」と考え、校長としてもう一つ大切にしたいことがある。それは一人一人の職員に「働き甲斐」と「自信」を実感しながら目の前の子どもたちに接してほしいということである。そのために、校長として職員が自主的に考えて実行したことに、出勤時や放課後の時間に褒めて、次も頑張ろうとする意欲付けをし、感謝を伝えるように努めている。



全ての学級に笑顔が

的安全性の確保である。そのため、校長は、いつも笑顔で何を話しても大丈夫という雰囲気でないければならない。職員の困り感は、児童や保護者対応、教科指導など多岐にわたる。職員の話にしっかりと耳を傾け、最後まで話を聴く姿勢を心掛けていく。

四 先輩校長から

四月に昨年度で退職され、個人的にも大変お世話になった校長先生の講話を聴く機会があった。三校の校長を務めた経験談からたくさんのお話を学ぶことができた。講話の最後に、校長に大切なことは、「いつも明るくいること」「いつもニコニコでいること」そして、「『失敗したこと』や『相談』を気軽に話してもらえらるような校長であり続けること」と笑顔で話されていた。そのことが今も強く心に残っている。

五 終わりに

これからの教職員の「働き方改革」と「ウェルビーイング」を大切にしたい学校経営を行っていききたい。「教師になつてよかった。」そんな思



全ての子どもに笑顔が

いになる教職員を育てたい。先日、一人の子が「私は、将来小学校の先生になりたいです。」と話していた。その子は担任の先生に憧れているのだと確信した。その学級には、いつも心の安心感と元気と笑顔があふれている。今年度の本校の児童会スローガンは、「岩手県一明るい学校を目指そう！」である。微力ではあるが、子どもたちに負けない明るさと笑顔で、校長としてのリーダーシップを発揮していききたい。

(宮古市立田老第一小学校

千葉 康祐)

事務局日誌抄

- 4月2日 第1回常任理事会(校長会事務局)
 12日 第2回常任理事会(校長会事務局)
 18日 第3回常任理事会(校長会事務局)
 19日 第62回岩手県小学校長会総会・研修会(盛岡市都南文化会館)
 第1回理事会・第1回評議員会合同会議(盛岡市都南文化会館)
 第1回各部担当理事、地区担当者・専門委員、地区事務局長合同会議(盛岡市都南公民館)
- 5月8日 第1回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 第1回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 10日 第1回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 17日 東北連小事務局会(青森市・ウェディングプラザアラスカ)川村部長、石亀書記出席
 東北連小第1回理事会・研修会(青森市・ウェディングプラザアラスカ)前川会長、飯岡副会長、川村部長、石亀書記出席
 21日 第2回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 22日 第1回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 23日 全連小第247回理事会(東京・KKRホテル東京)前川会長、川村部長出席
 24日 全連小第76回総会(東京・ニッショーホール)前川会長、川村部長、浅沼校長(笹間第一小)、鈴木校長(青笹小)、佐々木校長(黒沢尻西小)出席
 31日 第4回常任理事会(校長会事務局)
- 6月3日 全連小事務担当者連絡協議会(東京・KKRホテル東京)石亀書記出席
 5日 第3回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 10日 第2回理事会(盛岡市勤労福祉会館)
 第1回東日本大震災対策特別委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 岩手県小・中学校長研究大会二戸大会打合せ(タカヤアリーナ)
 12日 東北連小第1回教育課程委員会(青森市・青森県観光物産館アスパム)石亀部長出席
 13日 全連小合同部会・合同委員会(東京・KKRホテル東京)村田部長、石亀部長出席
 17日 第1回調査研究特別委員会・第4回調査研究委員会合同会議(盛岡市勤労福祉会館)
 28日 臨時常任理事会(校長会事務局)
- 7月1日 全連小健全育成委員会(東京・全連小事務局)村田部長出席
 2日 全連小広報担当者連絡協議会(東京・KKRホテル東京)村田部長出席
 3日 全連小教育環境整備等委員会(東京・全連小事務局)石亀部長出席
 東北連小第2回理事会(青森市・アップルパレス青森)前川会長・飯岡副会長・川村部長・石亀書記出席
 4日 第64回東北連小研究協議会青森大会全体会(弘前市・弘前市民会館)133名参加
 5日 第64回東北連小研究協議会青森大会分科会(弘前市内各ホテル)
 8日 東日本大震災被災地視察訪問(釜石市立唐丹小)飯岡副会長、金野部長
 9日 全連小被災三県校長会合同連絡会(東京・KKRホテル東京)前川会長出席
 文部科学省・全連小役員懇談会(東京・霞山会館)前川会長出席
 第5回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 10日 全連小小学校長会長連絡協議会(東京・KKRホテル東京)前川会長出席
 17日 東日本大震災被災地視察訪問(宮古市立高浜小)前川会長、中村部長、村田部長
 19日 第5回常任理事会(校長会事務局)
 23日 岩手県教育委員会へ要望訪問
 26日 第2回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)
- 8月19日 第2回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 第3回生徒指導委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 26日 東日本大震災被災地視察訪問(大船渡市立赤崎小)前川会長、川村部長、石亀部長
 27日 第6回常任理事会(校長会事務局)
 岩手県教育委員会との教育懇談会(サンセール盛岡)常任理事出席
- 9月3日 第3回行財政対策委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 4日 第6回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 第2回広報・編集委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 13日 第3回理事会(盛岡市勤労福祉会館)
 17日 第7回調査研究委員会(盛岡市勤労福祉会館)
 19・20日 東京電力福島第一原発等視察研修(福島県内)前川会長・飯岡副会長・中村部長出席

編集後記

本号では、第六十四回東北連合小学校長会研究協議会青森大会の様子について掲載いたしました。執筆にご協力いただきました各地区の参加者の皆様に感謝申し上げます。一読いただき東北各地における各研究課題の実践が、各校の運営の一助になることを願っております。

東日本大震災発災後、「東北は一つ」を感じる機会が多く、頼もしさや心強さを感じているところです。東北連小研究協議会による研修の機会は、県を超えた連携の重要性を強く感じる機会となっています。アトラクションの津軽三味線の音色からは、復興の苦難にも負けずに立ち上がってきた東北の強さを感じ取ることができました。

開催地の青森県及び弘前市の校長会の皆様、関係役員の皆様に深く感謝するとともに、来年度の秋田大会への期待も膨らむ大会となりました。

(広報・編集部 村田 浩隆)